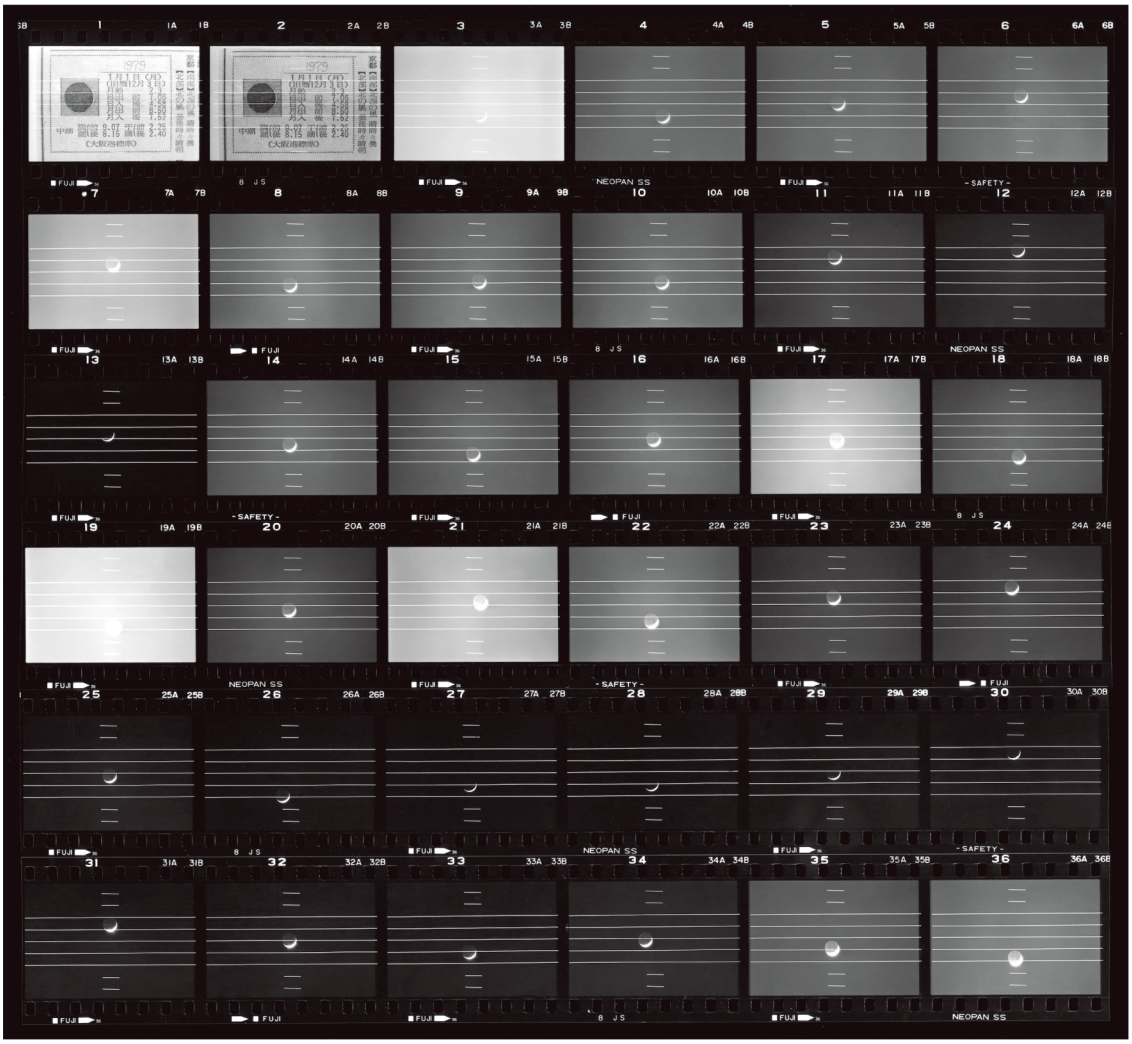


野村仁《'moon' score》1979 (1979.1.1) ©Keiko Nomura
Courtesy of ARTCOURT Gallery

京都市立芸術大学 芸術資源研究センター
第49回アーカイブ研究会

《'moon' score》の誕生
―野村仁と美術・音楽の交差点―

第1部 《'moon' score》の誕生と〈score〉の全体像

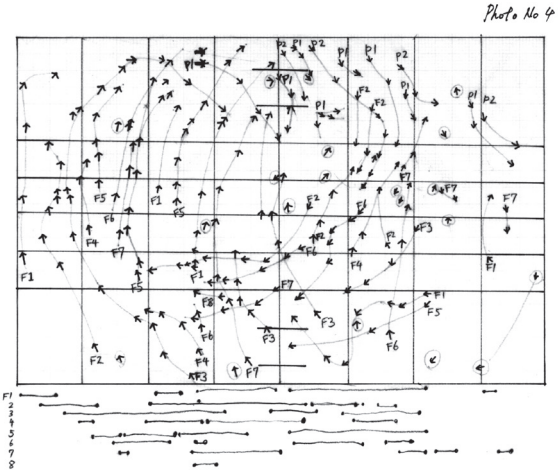
第1期 《'moon' score》の始まり―LP盤発表まで
第2期 音楽性の追求
第3期 視覚から数値データに移行して

お　話 吹田哲二郎（サウンドアーティスト／京都市立芸術大学美術学部非常勤講師）
演　奏 北村千絵（声楽家／ヴォイス パフォーマー／京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師）
聞き手 岡田加津子（京都市立芸術大学音楽学部教授）

第2部 クロス・トーク「野村仁の〈score〉再考」

司　会 菊川亜騎（同プロジェクト研究者／京都市立芸術大学芸術資料館 学芸員）
登壇者 岡田加津子、金氏徹平（同プロジェクト研究者／京都市立芸術大学美術学部准教授）
北村千絵、吹田哲二郎、髙木 遊（金沢21世紀美術館アシスタント・キュレーター）
藪前知子（東京都現代美術館学芸員）〈五十音順、敬称略〉

2026
2.14 sat.
13:00−17:00
京都市立芸術大学 C棟6階 多目的ギャラリー



左：《'birds score'》譜面のためのスケッチ。
　写真をトレーシングペーパーにトレースし旋律に分解する。吹田哲二郎提供
右：野村仁《'birds' score》1987（1987.3.5）より4コマ目
　©Keiko Nomura　Courtesy of ARTCOURT Gallery

芸術資源研究センター　第49回アーカイブ研究会

《'moon' score》の誕生——野村仁と美術・音楽の交差点——

彫刻を軸としながら、写真や音楽などの領域を横断する実践により独自の表現を展開した美術家・野村仁（1945–2023）。1988年からは本学美術学部彫刻科で教鞭を執り、教育にも大きな足跡を残しました。

芸術資源研究センタースタートアッププロジェクト「野村仁関連資料研究（美術関連資料のアーカイブ構築と活用）」（2025–）では、野村が遺した資料の整理・調査を進め、将来的な公開を見据えたアーカイブ基盤の構築に取り組んでいます。

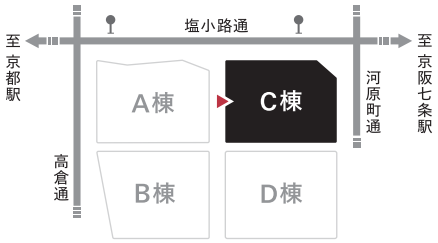
本研究会では、野村の代表作《'moon' score》（1975–）を取り上げ、美術と音楽が交差するその成立背景をひもときます。五線譜を写し込んだフィルムで月を撮影した本作は、1980年代以降、本学美術・音楽両学部の教員や学生との協働を通じて展開し、野村のライフワークとして発展していきました。本会では、譜面の実演を交えて、制作に携わった方々からお話を伺います。あわせて、音楽に深い造詣をもっていた野村の旧蔵資料を紹介し、美術史・音楽史の識者とともに〈score〉の構想がいかに育まれたのかを読みときます。

日時　2026年2月14日｜土｜13:00–17:00（開場12:30）
会場　京都市立芸術大学 C棟3階 講義室5
　*C棟入口よりエレベーターでお越しください
定員　50名程度（参加費無料・予約不要）

主催：京都市立芸術大学 芸術資源研究センター・京都市立芸術大学 芸術資料館
企画：芸術資源研究センタースタートアッププロジェクト 野村仁関連資料研究
協力：有限会社野村研究室・アートコートギャラリー
フライヤーデザイン：南 琢也

［問い合わせ先］京都市立芸術大学芸術資源研究センター事務局
〒600-8601 京都市下京区下之町57番1　Mail: arc@kcua.ac.jp

場内誘導や座席等について特別な配慮を必要とされる方は、講座開催日の4日前までに芸術資源研究センターまで御相談ください。御希望に沿うよう可能な限り対応いたします。



芸術研 GEISHIKEN

ギャラリー@KCUAにて開催中の金氏徹平とthe constructionsによる展覧会「tower (UNIVERSITY)」の会場では、野村仁旧蔵のレコード・コレクションをご紹介しています。あわせてご覧ください。

野村 仁

1945年兵庫県生まれ。1969年京都市立美術大学専攻科彫刻専攻修了。同年3月、修了制作として《Tardiology》を発表。以降、重力や時間とともに変化する物質の様相をカメラで捉え、1960年末より写真を主要な作品とする彫刻表現を発表する。70年代半ば以降は天体の動きにレンズを向け、《'moon' score》や《北緯35度の太陽》（1982–）、《アナレンマ》（1990–）など、天体観測に基づく自然界に存在する秩序を視覚化した作品を発表し、メディアアートの展開にも影響を与えた。国立国際美術館、水戸芸術館現代美術センター、豊田市美術館、国立新美術館での個展をはじめ国際的に活躍。2023年逝去後も「Tardiology への道程」（京都市京セラ美術館、2024年）、「モノのエコロジー」（パリ日本文化会館、2025年）など多くの展覧会で作品が取り上げられている。

《'moon' score》は1975年より二重露光フィルムを用いて制作され、同手法によって《'pleiades' score》（1978–）、《'birds' score》（1983–）が発表された。2000年代にはデジタルカメラへ移行し、楕円譜を採用した。2009年にはISS（国際宇宙ステーション）で撮影された月の写真を用いた《'moon' score: ISS Astronaut》（JAXAとの共同制作）を発表した。さらに、2021年からは天体観測衛星のデータに基づく《'Planck CMB' score》を制作している。

［CDアルバム］
1989　'moon' score｜弦楽5重奏、およびソプラノ6声の声楽
1991　'pleiades' score｜弦楽5重奏、およびDTM
1993　'birds' score｜DTM、および声楽による即興
2001　Concert 'moon' score｜ライブ演奏
2006　'Grus' score｜弦楽5重奏、ピアノ多重録音、DTM
2017　'moon' score: ISS Commander—Listening to it on Mars, now.｜DTM

吹田哲二郎

1986年より音響彫刻の研究を始める。1989年に《'moon' score》の実音化に取り組み、同年より野村仁の〈score〉シリーズの制作・演奏に継続的に関わる。1993年からソーラーカープロジェクトに参加。現在は京都市立芸術大学にてサウンド・エデュケーションを行う傍ら、京都の伝統芸能の保存継承にも取り組んでいる。

北村千絵

京都市立芸術大学音楽学部を卒業後、ロンドンに留学。1991年より京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師（英語）。ルネサンスから現代まで、主に英語をテキストに持つ作品を歌い、朗読でも好評を得る。また、20年以上のキャリアを持つ声の即興演奏では、幅広い音域、ノイズともとれる「音」としての声を駆使し、多くのミュージシャン、ダンサーとの共演を果たしている。

京都市立芸術大学
Kyoto City University of Arts

［アクセス］
・地下鉄烏丸線・JR各線・近鉄京都線「京都」駅下車 徒歩6分
・京阪電車「七条」駅下車 徒歩10分
・市バス4、7、16、81、205、南5号系統「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ
・大学内に駐車場はございません。各種公共交通機関をご利用のうえご来場願います。